

## 第4回北陸圏広域地方計画協議会

平成27年9月25日(金) 14:00~16:00

於 パレブラン高志会館 2階嘉月

### 1. 開会

### 2. 挨拶

#### (西脇国土交通審議官)

- ・ ご出席の各県、市町村、経済団体、関係省庁の皆さまには、平素から国土政策の推進にご支援・ご協力を賜り心から感謝申し上げます。また、北陸圏の広域地方計画の策定に対しましても、多大なるご尽力をいただいております。重ねて御礼申し上げます。
- ・ 去る8月14日に新しい国土形成計画の全国計画が閣議決定されました。今後10年間の国土づくりのあり方を定めるものであり、コンパクト+ネットワークを基本コンセプトとし、それぞれの地域が個性を磨いて、各地域が連携する対流促進型国土の形成を目指しています。広域地方計画は、この全国計画を基本として、北陸圏における骨太の圏域構造とその実現に向けた具体的な取組方針を明らかにするものです。
- ・ 圏域を越えた対流のモデルを各方面で展開するとともに、三大都市圏の日本海側に位置するという地理的な特性を活かし、アジア・ユーラシアダイナミズムを取り込むような観点からの議論も深めていただければ幸いです。
- ・ 本日はよろしく願いいたします。

#### (久和協議会長)

- ・ 本日はお忙しいところご出席いただきありがとうございます。今年5月から北陸経済連合会会長に就任し、併せて本協議会の会長も務めさせていただいております。
- ・ 新たな広域地方計画の策定については、昨年度から現行計画の見直しに着手し、3月に開催した協議会で計画の骨子を取りまとめ、公表されています。その後、各構成機関の皆様のご協力をいただきながら中間整理(案)のとりまとめを行ってきました。
- ・ 3月14日の北陸新幹線の開業により、全国から北陸に熱い視線が注がれています。マスコミにより北陸の良いところがアピールされ、また実際に多くの方々を訪れていただき、その良さを体感いただく絶好の機会になっています。
- ・ 北陸圏は厳しくも暖かい豊かな自然、魅力ある都市と農山漁村の共生、全国的に見ても活力のある産業など強みを持っており、国内外との対流・交流を推進し、日本海国土軸の中核圏域を目指していくことが重要と考えています。

- ・ 本日の協議会では、広域地方計画の中間整理（案）について、各機関の皆様の忌憚ないご意見をいただきますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

## 本会の公開について

（田所室長）

- ・ 本会議は、北陸圏広域地方計画協議会運営要領に基づき公開とさせていただきます。

## 3. 議事

### 協議会の成立について

（久和協議会長）

- ・ 本協議会の開催につきましては、北陸圏広域地方計画協議会運営要領第3条により、構成員総数の2分の1以上の方の出席が必要ですが、本日は半数以上の方にご出席いただいておりますので、本協議会は成立となります。

（構成員一同）

- ・ 異議なし。

### （1）新たな国土計画（全国計画）について

（本東国土政策局長）

- ・ 8月14日に閣議決定された新しい全国計画は、対流促進型国土形成を基本構想とし、多様な個性を持つ地域が連携して生じる地域間のヒト・モノ・カネ・情報の双方向の動きにより、イノベーション或いは新たな価値を生み出すことを意図している。
- ・ 重層的かつ強靱なコンパクト＋ネットワークという考えに立ち、東京一極集中を是正するために、魅力ある地方の創生や都市と農山漁村の共生に重点を置いている。また、北陸地域においては日本海・太平洋2面活用型国土を担うことが必要とされる。
- ・ 災害関連では、国土強靱化のスキームに則り、ハード・ソフト両面で対策を講じる。また、人口減少下で国土を適切に管理するという中で、農地森林を始め、美しい景観、自然環境、文化の保全再生・利活用の必要性を示している。
- ・ 国土基盤やインフラ関係については、戦略的なメンテナンスや賢く使う取組に重点を置いている。今回の国土形成計画を受け、先般、社会資本整備重点計画も新たに閣議決定され、こういった方向性を深めていくこととしている。
- ・ 更に、地域を支える担い手の育成、共助社会づくりということで、ソーシャルビジネス、「ヒトの対流」の活発化による共助社会づくりに力点を置いている。
- ・ 以上の全国計画を踏まえ、現在、各ブロックで広域地方計画の策定に向けて議論いただいている。各広域ブロックが自立的に発展していくという従来の大きなテーマに加え、相互の交流・連携も重要と考える。とりわけ、北陸においては連携するブ

ロックが色々あるので、そのようなところとの連携、対流のあり方について議論を深め、特色ある地域戦略を描いていただきたい。

## (2) 新たな「北陸圏広域地方計画」について

(帆苅総括副室長)

- ・ 北陸圏広域地方計画の策定スケジュールについては、昨年9月4日に幹事会を開催し、そこでキックオフされている。今年3月25日に第3回協議会を開催し、骨子についてとりまとめを行った。本日の協議会までの間には、有識者懇談会を開催し、また、構成機関の皆様からご意見を聞きながら、中間整理(案)と広域連携プロジェクト骨子(案)のとりまとめを進めてきた。本日は、この中間整理(案)ならびに広域連携プロジェクト骨子(案)について協議いただきたい。
- ・ 今後の予定については、10月に国土形成計画法に基づく市町村計画提案を受けることになっている。更に、有識者懇談会を再度開催し、ご意見を伺った後、年明けには計画原案の策定のための第5回協議会を開催する予定。その後、パブリック・コメントを実施した後、年度内に大臣決定を行う予定となっている。  
(以降、新たな広域地方計画に関する説明資料に基づき、中間整理(案)、広域連携プロジェクト骨子(案)を説明。)

## (3) 意見交換・質疑応答

(富山県町村会 舟橋村長)

- ・ 計画の64ページ(注:資料-5)に記載されている「金沢・敦賀間の着実な整備」という文言について、北陸新幹線の最終目的地として大阪についての記述が何らかの形で盛り込まれたらと思っており、ご検討いただきたい。

(富山県)

- ・ 北陸圏広域地方計画の策定に当たり大変ご苦勞いただいております、感謝申し上げます。
- ・ 北陸新幹線の敦賀までの更なる前倒し開業については、平成27年8月28日の与党整備新幹線建設推進プロジェクトチームの第14回福井県先行開業等検討委員会において、「福井駅先行開業の可能性はある」ととりまとめられ、また、これを受けて、国土交通省も「敦賀までの更なる前倒し開業の検討も含め、早期開業に最大限努力する」と表明されている。敦賀までの更なる前倒し開業の検討も含め、早期開業に努める旨を明記いただきたい。
- ・ また、経済効果やリダンダンシーの確保、東海道新幹線の代替機能ということで、大阪までのフル規格による早期全線整備を明記いただきたい。
- ・ 東海北陸自動車道の白鳥インターチェンジから小矢部砺波ジャンクションの間が暫定2車線区間となっている。特に飛騨清見インターチェンジから小矢部砺波ジャン

クシオン間の4車線化の目処は立っていない。暫定2車線の区間で、ひとたび事故が起きれば、重大な事故に繋がるだけでなく、観光や物流の面からも大きな影響を及ぼす。また、南海トラフ巨大地震などの大規模災害時における広域支援ルートとなるなど国土強靱化の観点からも重要性が高まっている。交通量についても、富山県内での大型商業施設の開業や、能越自動車道の七尾ICまでの開通もあり、増加している。国土交通省においても、9月1日から高速自動車道国道法施行令の一部を改正するパブリックコメントを実施し、交通量の増大等を勘案し、機動的に対応できるように整備計画変更等の手続きの見直しを検討することとしており、全線4車線化を明記いただきたい。

- ・ 高山本線は日本海側と太平洋側を結ぶ交通の大動脈であり、富山県と岐阜県の広域観光を担う重要な基幹鉄道である。北陸新幹線開業後、東京から高山へは、名古屋経由よりも富山経由の方が乗車時間が約30分程度短縮されているが、特急「ひだ」のダイヤは、名古屋・高山間の1日10往復に対し、富山・高山間は1日4往復しかなく、新幹線の利用客が富山駅で午前に乗り継げないことなどが課題となっている。
- ・ 富山県・岐阜県としても、沿線市町や民間団体などと連携しながら、高山本線を利用した両県を周遊する広域観光を推進しており、北陸新幹線開業後において、特急「ひだ」の利用者が増加している状況を確認している。高山本線の富山・高山間の増便等による利便性の向上についても明記していただきたい。

#### (石川県)

- ・ 国土交通省を始め、皆様におかれては、今回の北陸圏広域地方計画の策定にご尽力いただき御礼申し上げます。
- ・ 北陸新幹線の平成34年度末までとされている金沢・敦賀間の確実な開業は勿論のこと、少しでも早い前倒し、更にはその西、大阪までのフル規格による早期全線整備は不可欠と考える。大阪まで北陸新幹線を整備すること自体は、国土交通省と運輸省が定めた整備計画にも記載されている事項であり、既定の事実と考えており、是非、そういった方向性を明らかにしてほしい。
- ・ 道路・港湾・空港等交通ネットワークの充実について、リダンダンシーや交流の基盤の観点で、是非、能越自動車道の全線整備についても盛り込んでほしい。
- ・ 港湾についても、施設整備の必要性はますます高まっている。これまでも金沢港、七尾港についてはしっかり整備を進めていただいているが、こちらについても盛り込んでほしい。

#### (福井県)

- ・ 北陸新幹線を始め、高規格幹線道路、港湾整備など北陸地域が強く望むインフラ整

備を強力に推進するという姿勢を明記してほしい。全国計画でも日本海・太平洋2面活用型国土づくりが記載されているが、現状は太平洋側に投資が集中している。日本海国土軸を国土軸の主軸とするだけの気概を感じられるような計画にしてほしい。

- ・ 北陸新幹線の大阪までのフル規格による早期全線整備は、北陸地域の長年の悲願であり、また、最近では関西からの要望も非常に高まっている。北陸らしい計画となるよう、地域の強い願望が明確に表れるような計画にしてほしい。
- ・ 隣接圏域との交流・連携の中には、関西圏域とのつながりも明記いただきたい。

#### (新潟県)

- ・ 中間整理(案)の第3章「新しい将来像実現に向けた目標・戦略」で、「日本海国土軸の強化」が「日本海側の中枢圏域の形成」と修正された。北陸圏として、日本海沿岸地域の連携に必要な日本海国土軸の形成を本計画の中で打ち出してほしい。
- ・ 第5章「隣接圏域との交流・連携」では、日本海国土軸の形成や日本海国土軸の経済発展を支える広域交通網の充実等記載されており、本県も同じ方向で取り組んでいきたいと考えている。是非、今後もこの表現を残すようお願いしたい。

#### (長野県)

- ・ 本県の意見・考えについては、これまで意見照会の際や幹事会のお伝えしてきており、本日の中間整理(案)にも概ね反映いただき感謝申し上げます。
- ・ 隣接圏域との連携を図る上で、北陸新幹線を始め、様々な高速交通ネットワークの活用、各地域の自然環境や豊かな食文化の観光資源を通じた、新たな広域観光交流圏の形成、北陸自動車道、上信越自動車道、安房峠道路といった国道158号の活用等、首都圏との連携についてもプロジェクトに加えられたらいかがかと考える。
- ・ 観光以外にも産業や防災等、様々な分野でも圏域間の結びつきを強固にする必要がある。南北軸、東西軸、双方の交通ネットワークの整備・拡充が不可欠であり、中部縦貫自動車道、松本糸魚川連絡道路など交通ネットワークの整備についてもプロジェクトに記載してほしい。

#### (富山県市長会)

- ・ 北陸新幹線の敦賀までの着実な整備は勿論、大阪までのフル規格での早期整備については、毎回、全国市長会を通じて、北信越市長会では特別決議として要望している。是非、将来実現に向けた目標なり戦略のところでも明記してほしい。

#### (福井県市長会)

- ・ 3月に北陸新幹線が金沢まで開業し、影響力の大きさを改めて感じている。福井県

は関西地域との結びつきが強く、在来線の利用者や車を使って関西に行くこともかなり多い。敦賀への前倒しの開業、フル規格での大阪への延伸を盛り込んでほしい。

- ・ 地域コミュニティや小さな拠点という話が出てくるが、主体となって動くのは旧合併前の市町村なのか、或いは中学校区、小学校区等、自治体単位でやり方も違ってくるのではないか。どこからどういう風にとという働きかけ、過疎地域に関しても目を向けていただきたい。
- ・ 地域資源や地域ブランドについて、それぞれの地域に眠っているものが集結して大きな資源になるといった視点を汲み取っていただきたい。

#### (富山県商工会議所連合会)

- ・ 計画の将来像に「2面活用型国土を牽引する 新・北陸」とあり、日本海側で遅れているインフラ整備が今後10年で加速的に進むのではないかと大きく期待する。
- ・ 北陸新幹線の大阪までのフル規格での整備について、国土計画には「東京一極集中の是正」や「地域間の対流」という言葉が出ているが、北陸新幹線が大阪まで伸びなければ絵に描いた餅に終わってしまう。大阪までのフル規格での整備を確実に盛り込んでほしい。
- ・ プロジェクトの6番目（注：東アジアに展開する日本海中枢圏域形成PJ）で、北陸の港が今後、国際物流の上で拠点になるという絵が描かれている。また、南海トラフのような巨大地震時のルートも考えると、東海北陸自動車道の4車線化は必要。
- ・ 物流を考えた時、対流物流は貨物が中心となる。高山本線は今のところ単線で、電化もされていない。高山本線の高速化についても是非検討いただきたい。計画に幹線道路網の整備は出てくるが、鉄道網の整備についても記述してほしい。
- ・ 中央省庁や国の研究機関等を地方に移転するという動きについて、首都直下型地震のリスク等も考えると、大災害が起きた時の司令塔になる国土交通省が北陸に移転するのが合理的ではないか。2050年を見据えた計画なので、どこかにそれを盛り込んでほしい。

#### (石川県商工会議所連合会)

- ・ 北陸新幹線開業までの期間に、国や沿線の各県・各市がハード・ソフト両面で準備を重ねてきたことが更なるプラスの効果を生んでいるのではないかと考える。大阪までのフル規格での整備を明記いただくとともに、大阪へ繋がるまでの準備期間も含め総合的に考える必要性についても言及してほしい。

#### (福井県商工会議所連合会)

- ・ 平成23年12月26日の「整備新幹線の取扱いについて（政府・与党確認事項）」に「……北陸を経由して関東・関西を結ぶ新幹線ネットワークが概成すると言える。」

と書かれているので、北陸新幹線の大阪までの全線フル規格での整備について明記していただきたい。

- ・ 中部縦貫自動車道を早く整備してほしいので、それを入れていただきたい。北陸だけではなく、松本周辺で整備が遅れているが、あの辺りも特に重要で、首都圏との道路網がかなり縮まる。
- ・ 並行在来線が快速で敦賀、福井、金沢、高岡、富山辺りで繋がると、民間企業として北陸圏を行き来するのにありがたい。県で分断されないような趣旨を盛り込んでいただきたい。

#### **(中部管区警察局)**

- ・ 南海トラフ等発災があった場合、北陸で対応が必要な面が出てくる。管区警察局なので広域緊急援助隊など緊急部隊もあるが、発災時にどのように対応するか、それぞれの行政・機関等と連携を密にして対応していきたい。
- ・ 道路交通網の関係で、能越自動車道、東海北陸自動車道、中部縦貫自動車道の話が出ていたが、それらの延伸についても、国土交通省や地方整備局で進めているところだと思うが、各機関からの要望等も、検討・対応を一緒にやっていきたい。

#### **(北陸総合通信局)**

- ・ 計画の中で様々なICTの利活用について取り組んでいただいているが、北陸総合通信局としては、引き続き、ICTの基盤整備の推進や、その基盤を活用した利活用の促進等を通じて、計画の目標実現に向けてサポートしたい。

#### **(北陸財務局)**

- ・ 北陸圏広域地方計画や、現在進められている創生総合戦略、北陸新幹線の金沢・敦賀間の延伸、更には敦賀以西への延伸等、これらの計画があいまってこの地域の人口減少に歯止めがかかり、各地域が成長することを期待する。
- ・ 財政融資資金や金融等、財務局が持つ機能を有効に活用し、各機関や地域とも連携して、地域振興に貢献していく所存。北陸地域における様々な情報については、財務本省に情報を提供してまいりたい。
- ・ 昨年1月に北陸地域連携プラットフォームを立ち上げ、人口減少時代における地域活性化のあり方を議論し、北陸地域の将来について課題を共有してきた。地域金融機関との地域活性化に関する議論や、地方公共団体への国公有財産の最適利用によるまちづくりの推進支援にも取り組み、北陸地域の地方創生を支援していきたい。

#### **(北陸農政局)**

- ・ 当省の農林水産業の各政策をまんべんなく盛り込んでいただいている。中間整理(案)

の作成にご尽力いただいた推進室の皆様へ感謝申し上げます。これから広域連携プロジェクトの具体的な策定に向け、また宜しくお願ひしたい。

**(近畿中国森林管理局)**

- ・ 北陸圏広域地方計画については、森林・林業分野、森林整備、木材利用、バイオマスに関係も触れていただいているし、土砂災害については、資料の地すべりの防止対策の隣接地で治山事業を行なっており、協力しながら進めていきたい。
- ・ 野生動植物について、特に福井県では鹿被害が深刻な課題となっている。今回の中間整理（案）では触れていただいているので、環境省、農政局など各省庁、そして他の関係地方公共団体と協力して今後しっかり対策を取っていきたい。

**(中部経済産業局)**

- ・ 幹事会などでは北陸圏と中部圏の連携に関連し、昇龍道、コンポジットハイウェイコンソーシアムについて意見を伝えたが、今回、きちんと入れ込んでいただいている。お示しいただいた案について特段この場で申し上げることはない。

**(田所室長)**

- ・ 北陸の望ましい将来の姿や、取り組むべき重要なプロジェクトについて、地方公共団体や経済団体の皆様から熱いご意見をいただき、御礼申し上げます。特に北陸新幹線、高速道路、鉄道、高速交通ネットワーク整備の関係や、日本海国土軸の表現の方法、関西圏を含む隣接圏域との連携のあり方等について、大変重要なご意見をいただいた。これからいただいた意見を踏まえ、どういう記述振りが望ましいか、引き続きご相談させていただきたい。

**(江角北陸信越運輸局長)**

- ・ 今年7月1日の着任以来、北陸の方々とお会いする度に北陸新幹線の大阪延伸についてお話を伺っている。また本日の会議でも熱い思いをお聞かせいただいた。これまでも本省に皆様のご要望を伝えてきており、改めて申し入れたい。
- ・ 災害時のリダンダンシーの確保という観点では、資料-5の66ページの17行目に「災害時におけるリダンダンシーを発揮する相互補完機能の強化のため、北陸新幹線…等から形成される広域環状ネットワークの強化・拡充を目指す」と記載させていただいている。
- ・ 大阪延伸の具体的な表現については、現在、与党で議論いただいております。今年1月の政府・与党の申合せの範囲内で書いている。今日のご指摘は本省に伝えるが、どこまで踏み込んだ記述ができるかについては、引き続き検討していきたい。



**(久和協議会会長)**

- ・ 新幹線の大阪延伸については各機関が強い要望を持っている。整備新幹線として大阪まで整備することは決まっている。今日、色々ご意見いただいたことを踏まえて前向きな取り扱いとなるよう期待する。
- ・ 今日いただいたご意見はできるだけ反映いただくようお願いしたい。事務局で必要な修正をしていただき、中間整理（案）の最終的なとりまとめをしていただく。中間整理（案）については、再び各機関に最終的なご確認をしていただきたい。

**(帆苅統括副室長)**

- ・ 中間整理（案）或いは骨子（案）等についてご確認いただき、もしご意見等あれば、推進室までご連絡いただきたい。
- ・ 本日の協議会の議事録については公表を予定している。協議会が終わり次第、とりまとめて皆さんにご確認させていただくので、その際は宜しくをお願いしたい。

**4. 閉会**

**(藤山北陸地方整備局長)**

- ・ スケジュールの話について、10月に市町村からの提案があり、11月には第3回 有識者懇談会でも意見を聞くという運びとなっている。
- ・ よく、北陸は住みやすいところだと色々な調査で示されている。数字で見ると、三世代の同居率が高い、女性の就業率が高い、住宅の面積が大きい、戸建ての住宅比率が高い等で、数値化されていないところでは、自然環境に優れている、教育文化的なものが高い、或いは災害に対する安全度が高いといったことがある。これらに対してもますます磨きをかけていくことが広域地方計画としても重要と考える。

(以上)